

車いす用陰圧ブース

ADFが開発

医療現場で飛沫防ぐ

患者の負担軽減

エーディエフ（ADF、大阪市西淀川区、島本敏社長）は、車いす用の陰圧ブースを開発した。側面は消毒がしやすいフラットな透明パネルで、上部はHEPAフィルター付きのファンを備えて飛沫拡散を防止する。サンプル機の運用を横浜市立市民病院（横浜市神奈川区）で始めた。緊急事態宣言は解除されたが、医療現場での新型コロナウイルス患者の受け入れは続くため、患者と医療従事者双方の負担軽減につながる製音を訴求する。

ADFが11日に発売する「あんくま」から取り、親しみやすいネーミングにした。価格は130万円程度（消費税抜き、運



車いす用陰圧ブース「あんくま」（ADF提供）

賃別）を想定している。寸法は高さ180センチ×幅73センチ×奥行き110センチ。通常の車いすの座面幅は40センチだが、大柄な人向けに同46センチのワイド型も用意する。横浜市と特許を共同出願している。

アルミニウムフレームメーカーのADFがアルミフレームと樹脂パネルを組み合わせて

え、背面には消毒液などを入れるスペースも設けた。

島本社長は「病院では徹底した感染症対策が講じられているが、さらに万全を期せる製品。引き合い増になるのは良いと言えない状況になるが、全国の病院などで備えに役立ててほしい」と話す。

あんくまは、13日から3日間、幕張メッセ（千葉市美浜区）で開かれる「第4回病院設備・医療機器EXPO」に出展する。